

令和 5 年度 長岡市立図書館の活動評価

長岡市立中央図書館

令和５年度 長岡市立図書館の活動評価について

１ 評価の趣旨

図書館法第７条の３の規定に基づき、令和５年度の長岡市立図書館の活動について、次のとおり評価を実施した。評価は、指標に基づく内部評価と長岡市図書館協議会委員による外部評価から構成される。

２ 評価の項目

（１）基本評価（数値目標に対する達成率評価）

数値目標に対する達成率によって評価を行う。

① 利用状況

個人貸出冊数、予約件数、有効登録者数、実登録者数、郷土資料受入点数、窓口対応満足度、大活字本の所蔵冊数

（中央図書館入館者数、登録率、中央図書館開館日数、特別資料の転載等許可件数、新規購入冊数の割合は参考数値とする。）

② 管理運営費

図書館費及びその内訳は参考数値とし、評価を行わない。

（２）重点事項評価

長岡市立図書館の運営方針における重点事項について、重点事業の実績をもとに評価を行う。ただし、項番５と６は内部評価のみとする。

令和５年度重点事項

- 1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。
- 2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。
- 3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。
- 4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。
- 5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。
- 6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

3 評価の方法

(1) 図書館の内部評価

- ・項目ごとに数値目標と比較するなどして算定し、評価する。
- ・「基本評価」、「重点事項評価」とともに、AAからCまでの4段階の評価とする。

区 分	評価区分・内容
基本評価	AA … 数値目標を大きく上回った。(＋10%超) A … 数値目標を達成・上回った。(0～＋10%) B … 数値目標を下回った。(0未満～－10%) C … 数値目標を大きく下回った。(－10%超)
重点事項評価	AA … 優れた取組が多く、十分成果が上がっている。 A … 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている B … 一定の成果は上がっているが、工夫等が必要である。 C … 成果が上がっておらず、改善や見直しが必要である。

(2) 図書館協議会による評価

○ 協議会の開催

- ・日 時 令和6年2月26日（月曜日）
- ・会 場 長岡市立中央図書館講座室1

○ 協議会の意見のとりまとめ

- ・上記協議会における各委員の意見を委員長がとりまとめ、図書館協議会による評価とする。

4 評価の概要

基本評価は、評価対象の7項目中、前年度はB評価が7項目であったが、今年度はA評価が1項目、B評価が6項目であった。

重点事項評価は、事業別評価の19項目中、AA評価が3項目、A評価が15項目、B評価が1項目となった。

また、総括評価では、6項目すべてがA評価であったことから、全体としては、優れた取組がいくつかあり、成果が上がっているといえる。

5 図書館協議会意見

(1)「基本評価」について (評価 次ページのとおり)

- ・特になし。

(2)「重点事項評価」について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

→総括評価 A

- ・歴史文書館の利用者が7倍に伸びたことから、事業別評価「古文書等の歴史文書の収集・保存・活用」は AA 評価への修正について検討するべきである（協議の結果、AA に変更となる）。その他は内部評価のとおりとする。

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

→総括評価 A

- ・内部評価のとおりとする。

3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

→総括評価 A

- ・内部評価のとおりとする。

4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

→総括評価 A

- ・布絵本が展示され、大変好評であったことから、事業別評価「子ども向け図書館サービスの充実」は AA 評価への修正について検討するべきである（協議の結果、AA に変更になる）。その他は内部評価のとおりとする。

5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

→総括評価 A

- ・内部評価のとおりとする。

6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

→総括評価 A

- ・内部評価のとおりとする。

【目次】

I 基本評価について

1 利用状況	6
2 管理運営費	7

II 重点事項評価について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

(1) 重点事業の事業別評価について	8
(2) 重点事業の総括評価について	9
(3) 個別事業の実施結果について	10
① 貴重資料の活用	10
② 郷土資料の充実	11
③ 古文書等の歴史文書の収集・保存・活用	12
④ 歴史公文書の収集・保存	14
⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用	15

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について	16
(2) 重点事業の総括評価について	16
(3) 個別事業の実施結果について	17
① 図書館蔵書の充実	17
② レファレンスサービス（調べもの相談）の充実	18
③ 図書館の環境整備	19

3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について	20
(2) 重点事業の総括評価について	21
(3) 個別事業の実施結果について	22
① 広報について	22
② 各種機関と連携した事業の実施	23
③ 地域における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施	24

4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について	26
(2) 重点事業の総括評価について	26
(3) 個別事業の実施結果について	27
① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施	27
② 子ども向け図書館サービスの充実	28
③ 学校等への図書館サービスの実施	30

5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

(1) 重点事業の事業別評価について	31
(2) 重点事業の総括評価について	31
(3) 個別事業の実施結果について	32
① 利用者アンケートの実施	32
② 友の会事業	33
③ ご意見ポスの設置	34

6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について	35
(2) 重点事業の総括評価について	35
(3) 個別事業の実施結果について	36
① 外部研修・遠隔研修	36
② 職場内研修	37

I 基本評価について

1 利用状況

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度		達成率 (%)	評価
			達成目標値	年度末実績		
入館者数（中央図書館・人）	255,216	236,454	—	246,593		参考 数値
個人貸出冊数(冊)	1,598,746	1,517,335	1,547,000	1,494,177	97	B
予約件数（件）	254,240	255,905	261,000	257,499	99	B
有効登録者数(人)	38,101	35,611	35,600	37,958	107	A
登録率（%）	14.52	13.70	—	14.79		参考 数値
実登録者数（人）	28,067	27,715	27,800	27,227	98	B
登録率（%）	10.70	10.67	—	10.61		参考 数値
中央図書館開館 日数	289	305	—	304		参考 数値
特別資料の転載等 許可件数	55	59	—	84		参考 数値
郷土資料受入点数	1,920	1,917	2,000	1,962	98	B
窓口対応満足度 （大変よい＋よい）%＜中央館のみ＞	87.2	87.2	87.3	83.1	95	B
大活字本の所蔵 冊数	6,898	6,398	6,400	6,380	99	B
新規購入冊数の 割合	2.9% [24,323 冊]	2.9% [23,713 冊] 全冊数 816,163 冊	—	7.2% [60,633 冊]		参考 数値

* 有効登録者数は貸出カード有効期限内の登録者数

* 実登録者は有効登録者のうち年度内に1度以上貸出のあった登録者数

2 管理運営費

(決算額：千円)

項 目	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価
図書館費	354,271	409,902	371,409	
(うち施設管理経費)	267,702	273,564	253,514	
(うち資料費)	48,574	47,459	47,597	
(うち事業費)	37,995	88,879	70,298	

※米百俵プレイスミライエ長岡内互尊文庫除く

Ⅱ 重点事項評価について

1 当市をはじめとする郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める。

(1) 重点事業の事業別評価について

①貴重資料の活用

事業概要	・貴重資料を定期的にエントランスで展示する。 ・貴重資料をホームページやフェイスブックで紹介する。 ・貴重資料に親しむ講座を開催する。	
評価	A	評価理由
		・貴重資料をエントランスの展示やフェイスブック等で公開し、多くの利用者から楽しんでいただくことができた。

②郷土資料の充実

事業概要	・各種出版情報等から情報収集を行い、郷土資料を積極的に収集する。	
評価	A	評価理由
		・長岡市内の郷土資料を中心に、購入・寄贈併せて収集業務を行い、より一層の充実を図った。

③古文書等の歴史文書の収集・保存・活用

事業概要	・古文書等の歴史文書の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため、順次公開する。 ・各種講座・講演会及び展示会の開催、長岡市史双書の刊行などを行う。	
評価	AA	評価理由
		・古文書等の歴史文書の適切な収集・整理・保存・活用に努め、市民に向けて目録を公開し、長岡市史双書の刊行や市民からの閲覧・調査相談などで活用した。 ・利用者数が7倍に伸びたほか、講演会や展示会など積極的に開催した。

④歴史公文書の収集・保存

事業概要	市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存のうえ、目録を作成する。	
評価	A	評価理由
		庶務課等の関係各課と連携して、歴史公文書の適切な収集・整理・保存に努めた。

⑤長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用

事業概要	- 被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。 - 国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新を行う。 - 長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。 - 刊行物の発行などを通して、県内外に情報発信を行う。	
評価	A	評価理由
		長岡市資料整理ボランティアと市民協働で資料整理を行い、国立国会図書館東日本大震災アーカイブひなぎくへの追加掲載等の関係機関との連携を行った。これにより、長岡市災害復興文庫の保存・活用及び災害対応の経験・教訓の全国発信につながった。

（２）重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	貴重資料を有効に展示活用するとともに、話題の本も含め幅広い郷土資料の収集に努めた。また、講座等の開催、刊行物の発行、長岡市資料整理ボランティアや関係機関・団体との連携などを通して、古文書等、歴史公文書、長岡市災害復興文庫の整理・保存・活用と情報発信を行うことができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 貴重資料の活用

<目的・概要>

- ・貴重資料を定期的にエントランスで展示する。
- ・貴重資料をホームページやフェイスブックで紹介する。
- ・貴重資料に親しむ講座を開催する。

エントランス展示



▲創刊 40 周年「図書館の窓から」展示の様子

貴重資料に親しむ講座



▲初心者向けくずし字講座の様子

<実績>

1. エントランス展示

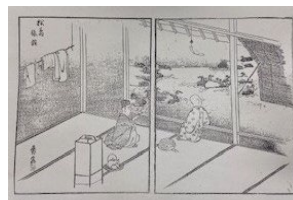
貴重資料の展示をエントランスで 11 回（R6.3月末現在）行い、フェイスブックでも周知した。

- ① 『万葉集略解』（「図書館の窓から」春号より）
- ② 歴史文書館新収蔵資料「虎三郎と弟 雄七郎」
- ③ 創刊 40 周年「図書館の窓から」（展示替 3 回）

2. フェイスブックでの公開を 3 カ月ごと（年 4 回）に拡大

4 月・松岡譲 書、7 月・井上井月 書、10 月・陳観帖、1 月・秋山景山 画

＊貴重資料アーカイブ「ながおかネット・ミュージアム」新潟県立図書館「越後佐渡デジタルライブラリー」でも貴重資料を公開



▲3の講座で使用したテキスト

3. 貴重資料に親しむ講座の開催

令和 5 年 1 2 月 2 日に図書館の貴重資料をテキストに、図書館資料に親しむ初心者向け講座「くずし字で読む『おくの細道』」を開催し、23 人の参加があった。

4. 貴重資料の貸出

- ・新潟県立歴史博物館「没後 400 年上杉景勝とその生涯展」…豊臣秀吉、上杉景勝、直江兼続
- ・新潟県立近代美術館「没後 50 年横山操」…横山操「昭和新山」
- ・良寛の里美術館企画展（6 回）…良寛関係資料

＜課題・今後の方向性＞

- ・エントランス展示は、気軽に足を止めて見ていただけるよう、市民の関心が高いものや珍しいものを織り交ぜるなど、飽きない工夫をしていきたい。

② 郷土資料の充実

＜目的・概要＞

- ・長岡市内の郷土資料を中心に、新潟県内の郷土資料について、より一層の充実を図る。
- ・新聞、雑誌、書店、SNS などから、幅広く出版情報を収集する。
- ・市役所各課で発行する行政資料を収集する。
- ・古書目録等から情報を収集するなど、郷土資料を積極的に収集する。

＜実績＞

	全館郷土資料蔵書数	前年度比増加冊数
令和2年度	102,669 冊	1,653 冊
令和3年度	103,953 冊	1,284 冊
令和4年度	104,003 冊	50 冊
令和5年度	105,330 冊	1,327 冊

- ・3階書庫の郷土資料棚がいっぱいとなり、資料の出し入れや保管時の破損等の恐れが生じたため、書庫資料の地域館への大規模な移動・除籍・整理を行い、郷土資料用の棚を2列確保することができた。今後の郷土資料収集の受入も可能となった。
- ・地元の郷土史家や閉校した小学校から大口の寄贈申し込みが続き、当館に所蔵がなく、現在購入が難しい郷土資料を多く受け入れることができた。
- ・郷土コーナーの利用を促進するため、各種表示や見出し等を見直し、分かりやすく整備した。
- ・郷土資料の活用を促進するため、2年ぶりにパスファインダー（調べ案内）を改訂した。



▲ 3階書庫に増やした
郷土資料用棚

＜課題・今後の方向性＞

- ・収集した郷土資料を活用していただけるよう、コーナーの整備や、資料の紹介など周知面が課題である。

③ 古文書等の歴史文書の収集・保存・活用

<目的・概要>

- ・ 古文書等の歴史文書の寄贈・寄託を受け、市民の閲覧に供するため順次公開する。
- ・ 郷土の歴史文書を守るため、歴史文書の取扱いについて相談を受け付ける。
- ・ 郷土長岡の歴史を知り、愛着をもってもらうため、歴史文書館が所蔵する郷土資料を活用し、各種講座・講演会及び展示会を開催し、長岡市史双書を刊行する。

長岡市史双書No.62



古文書解読講座「古文書のいろは」



<実績>

- ・ 古文書等の歴史文書の保存・公開に努めた。古文書等の歴史文書を活用し、講座・講演会及び展示会の開催、長岡市史双書の刊行を行い、郷土長岡の歴史を知る機会を市民に提供した。
- ・ 新たに公開した古文書等の歴史文書の寄贈件数 6件
- ・ 歴史文書の取扱い相談受付数 11件 (うち訪問調査回数 3件)
- ・ 講座・講演会の開催 (会場：歴史文書館)

講座・講演会名	回数	参加人数
れきぶん講演会	3回	162人
古文書解読講座「古文書のいろは」(初心者向け)	3回	120人
古文書解読講座「古文書に見る長岡のすがた」(経験者向け)	4回	198人
長岡市史双書を読む会	2回	85人

・展示会の開催（会場：歴史文書館）

展示会名	回数	展示タイトル（開催月）
常設展	5回	「虎三郎と弟・雄七郎」（7月） 「描かれた国漢学校」（8月） 「三島億二郎の手紙」（9月） 「長倉村の古文書」（10月） 「サンライフ長岡の思い出」（12～3月）
連携パネル展	1回	「長岡空襲体験画パネル展」（7・8月）
企画展	1回	「『長岡市史』回顧展Ⅰ「検地帳に中世を読むー地名に刻まれた村の歴史ー」（11・12月）

・長岡市史双書No.62『新型コロナウイルス感染症と史料保存 長岡市歴史文書館の試み』

500部

<課題・今後の方向性>

- ・7月1日に開館した歴史文書館は、旧・文書資料室の所蔵資料を活用した各種行事を継続するとともに、「れきぶん講演会」や常設展・連携パネル展・企画展を新規に開催した。その結果、7～12月の利用者数は延べ1,951人で、昨年度同時期の文書資料室の利用者数の約7倍となり、閲覧利用と行事利用の相乗効果が見られた。
- ・古文書解読講座「古文書のいろは」（初心者向け）、「古文書に見る長岡のすがた」（経験者向け）は、例年より多い申し込みがあった。講座室と駐車場を施設・敷地内に確保でき、参加の利便性が高まったことも要因と考えられる。
- ・長岡市史双書を読む会は、昨年度に刊行（再版）したNo.40『三島億二郎日記(4)ー北海道拓殖の記ー』をテキストに、長岡の近代史を紹介し、中央図書館が所蔵する「三島億二郎日記」（市指定文化財）の活用を図ることができた。
- ・古文書等の歴史文書は、所有者の家の建て替えや代替わりで、個人での保存が難しく、そのまま寄贈となる例が多い。今後も、受け入れ件数の増加が見込まれることから、保管場所を確保するとともに、計画的に整理・公開を進めていく必要がある。また、古文書解読講座等の主催行事の機会をとらえて、歴史文書を後世に伝えていくための意識付けを図る普及活動を行ってきたい。
- ・単独施設として開館したことに伴い、学校、コミュニティセンター及び市内の歴史関連施設との連携をさらに推進していきたい。

④ 歴史公文書の収集・保存

<目的・概要>

- ・長岡市役所の非現用文書（廃棄文書）を歴史公文書（歴史的資料）として、収集・整理・保存する。
- ・災害復興関連の歴史公文書を長岡市災害復興文庫として整理する。

歴史公文書の保存箱



歴史公文書の整理作業



<実績>

- ・歴史公文書の目録件数 694件
うち長岡市災害復興文庫の歴史公文書 25件
- ・保管場所：旧半蔵金小学校・旧種芋原小学校・浦瀬町倉庫・各支所など
- ・歴史公文書（特別閲覧対応）の問合せ件数 1件

<課題・今後の方向性>

- ・歴史公文書の収集・保存に関する基準を再検討する。
- ・電子化された公文書の収集・保存方法を検討する。

⑤ 長岡市災害復興文庫の収集・保存・活用

<目的・概要>

- ・災害と復興の経験・教訓を後世に伝える。
- ・被災歴史資料と中越大震災・東日本大震災等の災害復興関連資料の収集・整理・保存・活用を図る。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と、データの追加更新を行う。
- ・長岡市資料整理ボランティアの活動を支援する。
- ・機関誌やホームページなどを通して、県内外に情報発信を行う。

長岡市資料整理ボランティア（古文書整理）



長岡市資料整理ボランティア（新聞資料整理）



<実績>

- ・長岡市資料整理ボランティアは、延べ8回活動、延べ94人の参加があった。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」に図書資料 1,279 点の目録を追加更新した。

<課題・今後の方向性>

- ・来年度の中越大震災 20 周年に向けて、講演会や展示会の開催等を通して、「長岡市災害復興文庫」を情報発信する取り組みを推進する。
- ・県内外の文書館・図書館・博物館などとのネットワークを構築し、長岡市資料整理ボランティアや新潟歴史資料救済ネットワークなどにより一層の連携を図っていく。

2 課題解決に向けた資料及びサービスの充実を図るとともに、利便性の向上に取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について

①図書館蔵書の充実

事業概要	・市民の多様なニーズに対応する図書、雑誌等の収集、活用、保存に努める。 ・小規模な地域図書館の蔵書の充実を図る。 ・テーマ展示等で蔵書の活用を図る。	
評価	A	評価理由 ・中央図書館や、地域館の蔵書について、計画的に収集・整備し、活用することができた。

②レファレンスサービス（調べものの相談）の充実

事業概要	・図書館の蔵書や雑誌・新聞記事データベースなどを使い、市民の調べものに必要な図書を探す調査支援の充実を図る。	
評価	A	評価理由 ・寄せられた照会に対応できる蔵書を備えるとともに、適切な資料を検索する技術を持つ職員の育成に努めた。

③図書館の環境整備

事業概要	・安全・快適にご利用いただけるよう施設環境を整備する。	
評価	A	評価理由 ・施設の老朽化により修繕箇所が増加傾向であるが、優先順位をつけ整備を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・利用者のニーズに応じた資料の充実や施設改修により、図書館サービス向上に取り組んだ。

(3) 個別事業の実施結果について

① 図書館蔵書の充実

<目的・概要>

- ・市民の多様なニーズに対応する図書、雑誌等の収集、活用、保存に努める。
- ・小規模な地域図書館の蔵書の充実を図る。
- ・テーマ展示等で蔵書の活用を図る。

<実績>

コーナーの充実



▲諸橋轍次関連図書展示では『大漢和辞典』や関連資料を紹介



▲南地域図書館の郷土作家ミニコーナー

- ・郷土のテーマコーナー2カ所で、県立歴史博物館の企画展とのコラボを中心に、これまであまり紹介されてこなかったテーマ等を取り上げ、紹介に努めた。テーマに関連した未購入資料があれば、可能なものは購入し、資料の補充も行うことができた。

【郷土コーナーでの図書展示】

- 新潟県立歴史博物館コラボ展示「伝える災害の記憶展」「上杉景勝その生涯展」
- 長岡の郷土史家・本山幸一さんを偲んで ■堀口大学・堀口九萬一
- 長岡市歴史文書館展示コラボ 藤木久志（長岡市史編さんに尽力した歴史家）
- 鈴木牧之（エントランス『北越雪譜』展示コラボ） ■生誕 140 年 諸橋轍次

【地域館の蔵書充実】

- ・中央館から複本のある郷土資料を中心に移動や追加購入して、南館地域出身作家（松岡譲、関川夏央、秋山孝、川上四郎等）のミニコーナーを南館に増設した。

＜課題・今後の方針＞

- ・地域館の蔵書充実を図るためには、具体的な目的や計画を立て、予算措置することが必要。また、中央図書館と地域図書館の資料交換等、限られた予算を有効に活用を図るよう努めたい。

② レファレンスサービス（調べもの相談）の充実

＜目的・概要＞

- ・図書館の蔵書や雑誌・新聞記事データベースなどを使い、市民の調べものに必要な図書を探す調査支援の充実を図る。

豊富な参考図書



- ▲様々なレファレンスに応えるため、各種辞典、事典、白書等を備えている

国立国会図書館デジタル化資料送信サービス



- ▲国会図書館が所蔵する絶版資料を検索・閲覧できるインターネットサービスを利用し、調査の幅が広がる

＜実績＞

- ・今年度は83件のレファレンスを受け付けた（令和4年度：68件）。
- ・当館所蔵資料のほか、外部データベース、県立図書館郷土人物データベース、国立国会図書館レファレンス協同データベース、国立国会図書館デジタル化資料送信サービスなど様々なレファレンスツールを活用して調査した。また、市外図書館等関係機関に調査協力を依頼して回答に努めた。
- ・県外からの問い合わせが26件あり、全体の約3分の1を占めている。
 - 例）・東日本大震災の際、県外の人たちの避難所となった施設の情報を知りたい
 - ・長岡藩が幕府に「初鮭」を献上していた記録があるか、また研究者はいるか
 - ・一酸化炭素濃度計測器に定められているアメリカの規格の資料を見たい
- ・県内図書館新任職員研修等でレファレンス研修を受講（2人）
- ・県立図書館訪問研修で、初心者向けレファレンス研修を実施（19人参加）、郷土レファレンス研修（25人参加予定）
- ・パスファインダー（調べ方案内）の改訂（18件）、新規（2件）
- ・国立国会図書館レファレンス研修 人文・科学技術 各1人参加

＜課題・今後の方針＞

- ・レファレンスについては、郷土に関する問い合わせが多いことから、引き続き郷土資料の収集に努め、職員同士の情報共有や研修を通じてスキルアップを図れるようにしていきたい。また、利用者自らが必要な情報を得ることができるよう、資料の配置や館内表示、ホームページ等を見やすく工夫するなどし、使いやすい図書館を目指したい。

③ 図書館の環境整備

<目的・概要>

- ・図書館を安全・快適にご利用いただけるよう施設の改修等を行う。

<実績>

- ・日常の点検や利用者のご意見等から必要なものを選び、優先順位を付け整備・改修を行った。

○中央図書館

- ・美術センターシャッター修繕
- ・消防・防火設備修繕 等

※トイレ等改修工事は、令和6年度継続実施

○地域館

- ・西地域図書館
- ・空調換気扇交換修繕、入口自動ドア扉交換修繕



▲美術センター1階シャッター修繕



▲西地域図書館入口自動ドア修繕

※令和5年6月に発生した事故について

トイレ修繕作業において事故が発生し、トイレ等改修工事を中断。工事を安全に継続するため、施行業者への安全確認・環境改善工事を実施し、対応する。

<課題・今後の方針>

- ・令和5年度で完成予定だった男子トイレは、令和6年度に継続して工事する。
- ・図書館利用者が安心、安全に利用できるよう、限られた予算の中で優先順位をつけ、順次修繕していく。

3 積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施し、利用者の拡大を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 広報について

事業概要	・長岡市や図書館ホームページ、広報誌、SNS を利用し、積極的な広報を行う。	
評価	A	評価理由
		・ホームページやFacebook への投稿回数は昨年度と比べ減少したものの、図書館PR動画をホームページなどで公開し、図書館の認知度向上を図った。

② 各種機関と連携した事業の実施

事業概要	・他の施設と連携して事業を行うことで、PR の相乗効果を狙う。	
評価	A	評価理由
		・他の機関とのコラボ展示を行うことで、講演会チラシに図書館の関連図書展示コーナーの情報掲載等、互いの事業をPRすることで、利用促進を図ったが、昨年度と比べ連携回数は減少した一方、米百俵号の特別巡回を実施し、図書館外での活動を強化することにより、新たな利用者層の獲得を図りたい。

③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

事業概要	・特色資料に関連した、または地域の施設・学校などと連携した事業を継続し実施する。 ・調べる学習コンクールなど図書館資料を活用した事業を展開する。	
評価	A	評価理由
		・各地域図書館が持つ特色資料の関連事業のほか、近隣の学校と連携した事業を計画するなど、工夫して実施した。 ・学校を通じ働きかけ、「図書館を使った調べる学習コンクール」作品作りの事前説明会を行い、出品された作品のほとんどが参考文献など記載されるようになった。作品数は減ったが、グループ作品が増え、参加者数としては増加した。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・広報や事業については、投稿回数が昨年度を下回ったものの、広報活動や館外活動を行い、図書館の認知度向上を図ることができた。 ・地域図書館においても、近隣の学校と連携した事業を実施するなど、地域館ならではの取り組みを行った。

（３）個別事業の実施結果について

① 広報について

<目的・概要>

- （１）図書館ホームページ、Facebook など広く広報を行い、来館者の増加を図る。
- （２）テレビ・ラジオなどへの出演や新聞・雑誌への寄稿により図書館のPR 活動を行う。

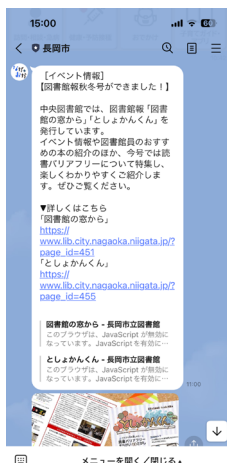
様々な媒体で図書館をPR



▲図書館フェイスブック



▲図書館ホームページ



▲市公式 LINE

図書館 PR 動画を公開



▲夜の図書館に迷い込んだ大学生が、謎の指令を解きながら将来の夢を見つけるハートフル・ストーリー

<実績>

- （１）年代別の図書館報を発行した。
 - 一般向け「図書館の窓から」、中高生向け「WE RE YOUNG-J I N」
 - 児童向け「としょかんくん」
- （２）図書館ホームページ、長岡市ホームページ、Facebook、LINE、こめぶらなどで広報を行った。
 - ① 図書館ホームページ更新回数 227 回
 - ② Facebook 更新回数 167 回

リーチ数最大：【中央館 読書バリアフリー関連展示と体験コーナーを設置中です！】561 件
- （３）報道リリースを行い、取材や周知の依頼を行う。PR 動画を公開し、広報活動を広げた。
 - ①新聞記事等掲載件数：9 件 図書館総合展ヴァーチャルツアー出演（11/14）：1 件
 - 読書バリアフリー、お正月絵本展示、歴史文書館開館イベント など
 - ②図書館 PR 動画公開
 - 図書館ミステリー動画「大切なもの」：700 回再生

<課題・今後の方針>

- ・情報発信回数を増やし、内容を工夫することで、来館者の増加につなげる。
- ・新聞・ラジオ等マスコミに露出することで、図書館の認知度向上を図る。

② 各種機関と連携した事業の実施

<目的・概要>

- (1) 他の行政機関等が実施する企画と連携し、お互いの利用の相乗効果を図る。
- (2) 図書館外で、図書館の利用促進を目的とした事業や PR 活動を行う。

「Origami 布施知子の世界」



▲長岡出身の折紙作家・布施知子さんの書籍などを特設コーナーで展示

POPで紹介 みんなのオススメ本！



▲小学生、中学生、市内8校の高校の図書委員会が、イラストを交えた文章などで本の紹介文を作成。本とともに展示・貸出

<実績>

(1) 連携展示

○図書展示（主なもの）

- ・馬高縄文館（4・10月） ・布施知子の世界（4～5月） ・環境月間（6月）
- ・映画「大名倒産」（7月） ・こころの健康（7・3月） ・食と健康（8月）
- ・万代島美術館 「ヨシタケシンスケ展」（7～9月） ・認知症ブックフェア・本人からのメッセージ（9～10月） ・読書バリアフリー、障害者週間、（10～12月）
- ・エコ標語コンクール（11～12月） ・まちゼミ（9・2月）
- ・小学生から高校生のPOP展示（12～2月）など29回

○エントランス展示

- ・長岡大手高等学校「長岡の魅力もりだくさんかるた」アンケート設置及び完成品展示

(2) 図書館外での活動

- ・米百俵号の特別巡回（すこやか・ともしびまつり、米百俵まつり、とちびまつり、のりもの大集合、高齢者施設訪問、聾学校・総合支援学校訪問、雪しか祭り）

<課題・今後の方針>

- ・他の機関と連携することで、講演会チラシに図書館の情報掲載等、互いの事業をPRすることができた。また、エントランスで展示を行うことで多くの人の目に留まった。令和4年度に導入した米百俵号ミニを活用し、館外での活動を行いたい。今後も連携を継続し、新たな利用者層の獲得を図りたい。

③ 地域館における特色資料や地域の特色を生かした事業の実施

<目的・概要>

- ・特色資料に関連した、または地域の団体や学校などと連携した事業を継続し実施するほか、図書館資料を活用した事業を展開する。

<取り組みごとの内容・評価・課題>

○特色資料に関連した、または地域の団体や学校などと連携した事業

きたちいきとしょかん大花火大会



▲金や銀の折り紙で作った花火のパーツを、来館者が台紙に貼り付け、貼り絵を制作。館内に展示した

醸造の町・摂田屋歴史さんぽ



▲長岡観光ボランティアガイドの解説で摂田屋地区を巡回。機那サフラン酒本舗では鍍絵蔵や中庭を鑑賞した

<実績>

- ・「きたちいきとしょかん大花火大会」は、北地域図書館の特色資料「花火」にちなんだ参加型のイベントを実施。5～7月にナイアガラ、三尺玉、フェニックスの3種類の花火の貼り絵を制作し、8月に「花火大会ポスター展」と合わせて展示した。親子など 200 人を超える参加があり、館内全体で花火大会を演出したイベントとなった。
- ・南地域図書館では特色資料「醸造」に関連し、歴史的な価値を持つ摂田屋地区を、長岡観光ボランティアガイドの解説付きで巡る「摂田屋ウォーキング」を開催。越のむらさき、旧機那サフラン酒本舗、味噌屋六、吉乃川の各施設で説明を聞き、実際に作業工程を目にしたことで、終了後に館内の醸造コーナーを観覧する人もいた。改めて図書館資料にも関心を持っていただけた。
- ・他にも、「昔話」を特色資料としている西地域図書館では「むかしばなし祭り」を開催。昼の部ではお面作りと昔話の登場人物に仮装して楽しめる「フォトスポット」を設置。閉館後の夜の部では長岡民話の会による紙芝居や語りを行うなど、一日中昔話に親しんでいただく取り組みを行った。
- ・地域団体と連携した事業としては、西地域図書館で長岡工業高等専門学校の出前・体験講座を開催。信濃川の橋や橋の構造についてお話いただき、その後割りばしでアーチ橋を組み立てる体験会を実施した。南地域図書館では長岡農業高校の先生と生徒が講師となり、苔玉作りを行った。

<課題・今後の方針>

- ・高校に講師を依頼したり、図書館周辺の施設へ訪問したりと、各学校や団体とコミュニケーションをとる活動が再びできるようになってきた。図書館で体験したり、地域周辺に目を向け連携を取るなどして、今後も図書館資料を活用いただける事業を展開していく。

○図書館資料を活用した事業（図書館を使った調べる学習コンクール in 長岡）

事前説明会	審査会の様子
 ▲全館で低学年と高学年に回を分けて説明会を開催。説明会後も図書館には作品作りのための相談や資料の問い合わせなどがあった	 ▲中央図書館講座室を会場に、審査会を開催。審査員が感心する作品も多い中、上位入賞候補に挙げる作品には意見が一致した

<実績>

- ・今年度は市内25校の児童から119作品の応募があった（昨年度：27校123作品）。昨年度は個人の応募のみだったが、今年度はグループで作った作品の応募があり、昨年度を超える124人の児童が参加した。
- ・各図書館で事前説明会を低学年と高学年の回に分けて開催。夏休み期間中には作品テーマに沿った資料を探して図書館に通っている子どもたちの姿が見られた。今年度で12回目となるが、作品応募について質問も増えてきており、これまでの積み重ねで「調べる学習コンクール」が市内小学生に浸透してきたと感じている。また、ほとんどの作品には参考文献など基本的な記載があり、作品として形が整えられてきている。今後も『作成キット』などを活用して、取り組んでいただける学校がさらに広がるように働き掛けたい。
- ・審査では、低学年・中学年・高学年ごとに最優秀賞と優秀賞を1作品ずつ選出、全学年の作品から審査員特別賞を1作品、中央図書館特別賞1作品が選ばれた。
- ・全国コンクールに最優秀賞の低学年と高学年の作品2点を出品し、低学年の作品が優良賞、高学年の作品が奨励賞を受賞した。

<課題・今後の方針>

- ・地域コンクールと全国コンクールの関係が分かりにくいところもあったので、分かりやすい案内ができるよう工夫していきたい。
- ・低学年が理解しやすいよう低学年用の調べる学習帳の作成にも取り組み、事前説明会で活用し、図書館資料を活用した作品をコンクールに出品してもらうよう働き掛けたい。
- ・引き続き、学校にも働き掛けることで、応募数を増やし、全国コンクールへ推薦する数を増やしたい。

4 長岡市子ども読書活動推進計画に基づき、子どもや若者が本に親しむ環境づくりに取り組む。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

事業概要	・令和5年3月に策定した「第3次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。	
評価	A	評価理由
		・読み聞かせボランティアや学校関係者の活動に役立つ講座を実施し、地域全体で子ども読書活動を推進する支援を行うことができた。 ・ベビーパック2さいを作成、おすすめ本パックの年代区分を追加し、年齢にあわせた本の紹介を行うことができるよう拡充を行った。

② 子ども向け図書館サービスの充実

事業概要	・ゴールデンウィークや夏休み等を利用して、子どもたちが読書を始めるきっかけとなり、図書館や本に親しむことができる行事を行う。	
評価	AA	評価理由
		・恒例の「サマーチャレンジ」を開催し、図書館や本に親しむきっかけを提供し、参加人数は微増した。 ・力作がそろった布絵本が話題になった。

③ 学校等への図書館サービスの実施

事業概要	・図書館から遠い地域にある小学校への米百俵号の巡回や、学級文庫として活用してもらう学校配本、授業用の本の貸出など、学校図書館の蔵書を補う。	
評価	A	評価理由
		・小中学校や児童館等に図書を設置、プラットフォーム「こめぶら」等で広報することで、読書環境の整備を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・子ども読書推進活動の充実を図るため、内容に工夫を凝らして、各種イベント等の実施に取り組むことができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 子ども読書活動推進計画関連事業の実施

＜目的・概要＞	
令和5年3月に策定した「第3次長岡市子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書環境を整え、読書機会の増進を図るための事業として実施する。多くの事業を展開する中で、今年度は次の事業を取り上げ評価する。 1. 初心者向け読み聞かせ講座・読み聞かせボランティア養成講座の実施 2. 「ベビーパック2さい」(新規)と「長岡の子ども100冊」活用事業(継続)	
読み聞かせボランティア養成講座	ベビーパック2さい
 ▲講座の様子	 ▲図書館司書が選んだ2～3歳向けの絵本を、テーマごとに3冊セットにして貸出サービス
＜実績＞	
1 ■読み聞かせボランティア養成講座 「本を読む楽しみを届けよう～子どもと絵本をつなぐために～」 日 時：令和5年10月21日(土) 午後1時30分～3時 内 容：読み聞かせの目的について考え、ジャンルや対象年齢等について触れながら、読み聞かせの本を紹介 講 師：中村 順子氏(元学校司書、日本女子大学・中央大学等非常勤講師) ■読み聞かせボランティア養成講座 ・【第一部】初心者向け読み聞かせ講座 日 時：令和6年2月24日(土) 午前9時30分～正午 内 容：絵本の選び方や読み聞かせの大切さなどについてを指導。後半では実践編として本を実際に使った演習を行う。 講 師：中央図書館司書 高橋 啓美、金安 麻子 ・【第二部】「絵本をとおして見えてくる家族の姿」 日 時：令和6年2月25日(日) 午前10時～11時30分 内 容：時代や社会の変化に触れながら、子育てや老い、障害等がどのように描かれてきたのかを学ぶ。 講 師：江畠 祥子氏(長岡市子育てコンシェルジュ、北陸学園他非常勤講師)	

2 「ベビーパック2さい」（新規）と「長岡の子ども 100 冊」活用事業（継続）

（1）「ベビーパック2さい」

年齢別のおすすめ絵本をテーマごとに3冊セットにして貸し出すサービス。0～2歳向け「ベビーパック」、3～5歳向け「キッズパック」の間をつなぐ、2～3歳向けを新設。生活に身近なテーマを中心に5テーマを作成し、中央館で貸出を開始した。

（2）「長岡の子ども 100 冊」

令和3年度末に選定した、乳幼児から中学生まで年代別おすすめ本リスト「よもよもブックス」（長岡の子ども 100 冊）について、昨年度に引き続き、周知・活用事業に取り組んだ。

- ①ブックリストを市内小中学生に配布
- ②市内全館でよもよもブックス常設コーナーを設置
- ③本の人気投票「第2回 よもよも大賞」を実施
- ④団体向けセット貸出「よもよも BOX」を実施。※保育園の貸出増
- ⑤背表紙ラベルを配布し、学校・保育園などでの活用を支援
- ⑥各学校へのブックトークでよもよもブックスを紹介

よもよもブックスを活用することで、年齢に応じた本の紹介を行うことができた。また、保育園・学校等の希望に応じて、よもよもブックスセットの貸出・運搬や、団体所有の本に貼るラベルを配布。施設内でのよもよもブックスコーナー設置を支援し、読書環境の整備に寄与することができた。

<課題・今後の方針>

- ・ボランティアの育成・拡充を継続的に行う必要がある。
- ・子どもの年齢に応じた本の紹介を引き続き行いたい。来館者だけを対象とするのではなく、園や学校を通じて、より大勢の子どもたちや子どもと関わる大人に対し、働き掛けを行っていききたい。

② 子ども向け図書館サービスの充実

<目的・概要>

1. ゴールデンウィークや夏休みを利用し、全館共通行事を行う。

■子ども一日図書館員

こどもの読書週間にあわせ、仕事を体験しながら図書館に親しんでもらう。

■としょかんサマーチャレンジ

「熱中！感動！夢づくり教育事業」の一つとして、乳幼児から小学生を対象に大規模に実施。

夏休みに合わせ、期間中に本を30冊読むことを目的とする「めざせ30冊コース」と、図書館に親しむことを目的とする「チャレンジコース」の2種類を用意。それぞれの達成者には賞状や記念品をプレゼントする。読む本は、市内図書館ほか学校図書館や家庭の本でも可能で、家庭での読書が主となるもの。

2. 布絵本の個人貸出拡充

誰もが読書を楽しめる環境を整備するため、児童向けに読書バリアフリーコーナーを設置している。これまで布絵本は団体向けに貸出、個人向け貸出を試行していたが、個人向け貸出を33タイトルに拡充。大勢の人の目に触れるよう、場所を変更した。

子ども一日図書館員	布絵本
 ▲本のコーティングに挑戦	 ▲団体向けに貸出していた布絵本を個人へ貸出（33点）
＜実績＞	
■子ども一日図書館員 「こどもの読書週間」に関連し、5月13・14日に実施。館内見学、貸出返却、本のコーティング体験などを行った。参加人数：23人（全館） ■としょかんサマーチャレンジ期間：夏休み（7月8日～8月27日） 「めざせ30冊コース」30冊達成：335人、10冊達成：460人 「チャレンジコース」423人 夏休みの恒例行事として定着し、今年度も子どもたちが熱心に取り組む姿が見られ、読書や課題を解決した達成感を得ることができた。 【図書館版☆謎解きゲーム 文豪カフェにおいてよ】 「秋の読書週間」に合わせ実施していたが、今年度は中・高生が参加しやすいよう8月1日～10月1日に実施。難易度は中学生程度。参加者数：68人（中学生23人、高校生4人、専門・大学2人、小学生以下26人、一般10人、年代記載なし3人） ■布絵本の貸出 布絵本製作グループによる布絵本にバーコードを貼付、読書バリアフリーコーナーに設置、貸出を行った。	
＜課題・今後の方針＞	
・子どもたちと本をつなぐための子ども向け行事が、その後の継続的な図書館利用につながるよう、工夫を凝らして継続していくことが必要。	

③ 学校等への図書館サービスの実施

<目的・概要>

- ・読書週間等に小学校を訪問し、年代に合ったおすすめの本を紹介するブックトークを実施。
- ・図書館から遠い地域の小学校に米百俵号で巡回し、本の貸出や読み聞かせを実施。
- ・希望する小・中学校・児童館に学級文庫として使える本を貸出・配送。
- ・児童発達支援事業所および放課後等デイサービス事業所を対象に、図書の貸出・配送を行う「児童書セット貸出」を実施。
- ・「米百俵号ブックカーニバル」では、夏休み期間に児童館・児童クラブを訪問し本を貸出。
- ・「授業用図書セット貸出」小・中学校で授業に使用する本を 40 冊まで 2 週間貸出。



▲様々な特性を持つ子どもたちを支援する施設へ児童書を配達（放課後等デイサービスへの貸出）



▲夏休み期間中、米百俵号から本を選ぶ子どもたち（米百俵号ブックカーニバル）

<実績>

- 【ブックトーク】 小学校 公演数：30回 参加者数：1,515人
- 【米百俵号による巡回】 小学校 訪問数：26校 回数：年10回ずつ
- 【学校配本】 聾学校幼（1校）12箱、小学校（46校）1,172箱 中学校（7校）80箱
高等総合支援学校（1校）38箱
- 【児童書セット貸出】 児童館（29館）125箱
- 【放課後等デイサービス事業所】（6施設）24箱
- 【米百俵号ブックカーニバル】 夏休み中のイベントとして児童館や児童クラブから毎年好評
（今年度実績） 8回実施 参加者数：251人 貸出冊数：526冊
（昨年度実績） 10回実施 参加者数：416人 貸出冊数：911冊
- 【授業用図書セット貸出】 78件（全館分）

<課題・今後の方針>

- ・米百俵号での訪問や学校でのブックトーク・おはなし会等を行いながら、今後も事業を継続したい。
また、米百俵号ミニを活用した事業を行いたい。

5 市民の要望・意見を広く取り上げ、図書館運営に反映させる。

(1) 重点事業の事業別評価について

①利用者アンケートの実施

事業概要	・毎年夏期にアンケートを実施し、利用者のニーズを把握することにより、運営に役立てる。	
評価	B	評価理由
		・昨年度からアンケートにより利用者のニーズを把握し、活かすよう努めた。

②友の会事業

事業概要	・利用者が集い、読み聞かせや書架整理などの様々な活動を通じて、図書館を支援いただく。	
評価	AA	評価理由
		・図書館視察研修を再開。冬のお楽しみ会等新規事業を行い、事務局も適切な支援を行った。

③ご意見ポスの設置

事業概要	・寄せられた意見を毎月集約し、図書館運営に反映させる。	
評価	A	評価理由
		・評価は概ね良好であり、意見への対応もすべて検討し、可能な限り改善した。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・概ね順調な業務・活動を行っており、寄せられた意見に対応した。

(3) 個別事業の実施結果について

① 利用者アンケートの実施

＜目的・概要＞	
・ 例年どおり実施し、昨年度との比較や現状の利用者の意見を把握する。	
【中央図書館】 ＜利用者アンケート＞ ○ 窓口の対応について ○ 館内や本棚の表示について ○ 本の種類の充実度について ○ 希望する本の分野について ○ 希望するサービスについて など	【地域図書館】 ＜利用者満足度アンケート＞ ○ スタッフについて 挨拶や言葉づかい、接客対応など（3項目） ○ 施設の快適さについて 設備、分かりやすさ、案内情報（4項目） ○ 図書館サービスについて 資料の充実、展示物などについて（5項目）
＜実績＞	
○ 中央図書館のアンケート（窓口：8月15日～30日、ホームページ：8月15日～9月30日） 窓口では、貸出しカウンターでの配布を中止したため、回収枚数が減少した。窓口対応については、「大変よい」＋「よい」が83.1%と昨年度の87.2%に比べて評価が低下した。 （今年度実績） 紙用紙：260件 Web：126件 （昨年度実績） 紙用紙：736件 Web：11件 ○ アンケート結果への対応 ・ 窓口対応については毎年意見にあがるため、一層注意を払うよう心がける。 ・ 返却本の状態や汚破損についての一層の確認及び利用マナーの周知を行う。 ○ 地域図書館のアンケート（7月22日～8月20日） （今年度実績） 配布・回収数 1,299件（全て回収）・・・地域館6館合計数 （昨年度実績） 配布・回収数 749件（全て回収）・・・互尊文庫を含んだ7館合計数 今回もスタッフ対応については良い評価をいただいているが、利用者への気配りや柔軟な対応ができるようレベルアップを図る。 毎年のことだが、要望として資料の充実に関するものが多く寄せられた。	
＜課題・今後の方針＞	
【中央図書館】 本の配置（分類）が分かりにくく、資料が探しにくいなどの意見があったため、引き続き表示の見直し等改善に向けて取り組む。 【地域図書館】 幅広い世代の人が快適に利用できるよう、引き続き表示の見直しを行う。	

② 友の会事業

<目的・概要>

- ・図書館支援団体として、図書館と連携し、活動を運営に生かす。

令和5年度 友の会行事

○視察研修

7月27日(木) 午前10時30分～午後1時

友の会会員参加者：20人

新型コロナウイルスの影響により、中止していた視察研修を再開。今年度オープンした「ミライエ長岡」互尊文庫と第四北越ミュージアムを見学した。



○館内見学及びスマートフォンの使い方講座

12月4日(木) 午後1時30分～3時20分

友の会会員参加者：7人

会員を対象に中央図書館内見学を実施。書庫見学のほかマイクロフィルムやデータベースを紹介。見学の後、図書館資料の検索・予約方法等の講座を実施し、スマホの活用方法を学んだ。



○中央図書館にあつまれ！冬のお楽しみ会

12月26日(火) 午前10時30分～午後3時

来館者：88人 友の会会員参加者：11人

親子向けバックヤードツアーやおはなし会、ワークショップをはじめ、児童向けのイベントを実施した。平日にも関わらず多くの方が参加し、大盛況となった。



○友の会映画会

2月14日(水) 午前10時～正午

来館者：30人

友の会副会長 野上純嗣さん 監督・製作作品『カリフラワーにほだされて』(75分) を上映した。

<実績>

- ・コロナウイルスの影響により、制限されていた活動を徐々に再開。今後も、図書館活動の応援につながる取組として、活動を継続していきたい。

(今年度実績)

総会、視察研修、館内見学及びスマートフォンの使い方講座、友の会映画会、中央図書館にあつまれ！冬のお楽しみ会、書架整理、布絵本の会、つぐみの会 など

個人会員：35人 賛助会員：30

(昨年度実績)

総会、夜の図書館を楽しむ会～中央図書館24時～、書架整理、布絵本の会、つぐみの会、栃尾地域交流拠点施設オープニングイベント参加 など

個人会員：33人 賛助会員：20

<課題・今後の方針>

- ・今年度は、新規イベントを実施。今後も会員が主体となった企画・運営の取組みへの支援を行い、魅力的な図書館サービス・イベントを行うことで、幅広い世代の新規会員の加入促進につなげたい。

③ ご意見ポストの設置

<目的・概要>	
・開かれた図書館とするため、利用者の意見や要望を広く収集し、今後の運営に役立てる。 ・意見の回答を掲示するとともに、事業改善を行う。	
<主な要望>	
(中央図書館) ・閲覧席の向きを検討してほしい。 ・自習室の席数を増やしてほしい。 ・館内での利用マナー周知に努めてほしい。 ・資料を増やしてほしい。 ・冷房を効かせてほしい。 など	(地域図書館) ・液体洗剤が泡立たず汚れが落ちない。固形石鹸は年代物の感があり、使う気になれない。 ・飲食できる場所が欲しい。学習席で水分補給をしたい。 ・館内の BGM は不要。 ・駐車場の白線が消えて見えない。 ・館内案内図が分かりにくい場所にある。 など
<実績>	
(中央図書館) 毎月意見を集約し、可能な限り対応した。 ・窓口対応については、概ね好評価をいただいている。 ・閲覧席に関して、一般コーナー窓側の席の向きを検討・修正した。 ・調査席の利用方法について、今年度より席札の手渡しを廃止し、セルフサービスとした。 ・分類表示について、表示の見直しを行った。差し込み表示の修正等順次作業予定。 ・ご意見ポストの設置は12月末で終了した。今後は、長岡市立図書館ホームページのご意見フォームよりご意見を募集する。 (地域図書館) 意見に対し、可能な限り対応した。 ・固形石鹸を撤去し、新たな液体洗剤に変更。投書の時点で使用していた液体洗剤は、別の商品と入れ替えた。 ・飲食スペースについては、館内で設置できる場所が非常に限られているため、ドリンクスペースを蔵書点検時のレイアウト変更とともに設置予定。 ・機械本体が老朽化していることも鑑み、現在、BGM を停止している。以前、一度 BGM をなくしたところ、逆に「うるさい」という苦情が増えたことがあった。現在のところ、双方からの苦情は出ていない。 ・西地域図書館の駐車場は、休館日で天気の良い日に区画を区切り、白線引きの作業を行った。南地域図書館の駐車場管理は、「高齢者センターみやうち」所管のため、要望があったことをお伝えし、対応いただいた。 ・館内に入って目につくようにイーゼルに乗せて入口中央に設置した。	
<課題・今後の方針>	
・普段職員が気付きにくいことについての意見が多かったので、利用者の目線に立ったサービスの改善を一層心がけていく必要がある。	

6 勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る。

(1) 重点事業の事業別評価について

① 外部研修・遠隔研修

事業概要	・県立図書館主催の研修等に職員を参加させ、また研修で得たことを職員間で共有し、図書館職員としてのスキルアップを目指す。	
評価	A	評価理由
		・研修に参加し、情報の共有を図り、職員のスキルアップを図った。 ・昨年度に比べ参加人数が減少したものの、内容の充実した研修に参加し、課題論文に取り組むなど研鑽に取り組んだ。

② 職場内研修

事業概要	・職員全体での研修会を行い、職員全体の資質の向上を図る。	
評価	A	評価理由
		・中央図書館では、外部講師を招いて係内研修を2回行った。また、外部研修に参加した職員が係内で報告する係研修を行った。 ・地域図書館では、今後取り組む SNS に関する研修や今後の障害者雇用に向けてスタッフ全員が共通認識を持てるよう、長岡全体研修を行った。

(2) 重点事業の総括評価について

総括評価	評価理由
A	・外部研修・職場内研修ともに予定どおり実施し、成果を上げることができた。

(3) 個別事業の実施結果について

① 外部研修・遠隔研修

<目的・概要>

- ・新潟県立図書館などが主催する研修に職員を参加させ、また、研修で取得したことを職員間で共有し、図書館職員のスキルアップを目指す。
- ・地域図書館では、県立図書館主催の外部研修に今年度もできる限り参加し、各館内で情報を共有する。

＜参加研修＞

- ①新潟県公共図書館新任職員研修会 5月23・24日（中央館3人、地域館2人）
- *②視覚障害者サービス研修（第1回） 6月8日（中央館4人、地域館2人）
- *③子ども読書レベルアップ研修 7月4日（中央館4人、地域館3人）
- ④新潟県公共図書館児童部門研究集会 7月7日（中央館2人 地域館1人）
- *⑤北陸地区公共図書館職員研修会 10月4日（中央館2人）
- *⑥新潟県公共図書館中堅職員研修会 10月10日（地域館2人）
- ⑦国際子ども図書館児童文学連続講座 10月16・17日（中央館1人、地域館1人部分受講）
- *⑧新潟県学校図書館研究大会 10月17日（中央館2人）
- *⑨ブックスタート全国研修会 10月20日（中央館2人）
- *⑩国立国会図書館リファレンス研修「科学技術情報の調べ方」 11月2日（中央館1人、地域館1人）
- *⑪新潟県公共図書館総合部門研究集会 11月15日（中央館2人、地域館2人）
- *⑫障害者サービス担当職員養成講座 11月28・29日（中央館3人）
- *⑬国立国会図書館リファレンス研修「人文情報の調べ方」 12月7日（中央館1人）
- *⑭視覚障害者サービス研修（第2回） 1月17日（中央館4人）
（第3回） 2月21日（地域館5人）
- *はオンライン研修

＜実績＞

- (今年度実績) 中央図書館：27人参加 地域図書館：10人参加
(昨年度実績) 中央図書館：43人参加 地域図書館：18人参加
- ・中央図書館では、オンライン研修へ積極的に参加し、先進地の事例や最新の機器、サービスの動向情報を得ることができた。部門会議等で情報共有し、今後の業務に活かしたい。
 - ・地域図書館では、勤務人数の関係で参加することが難しい研修もあったが、参加した研修について情報を共有した。

＜課題・今後の方針＞

○中央圖書館

外部研修の成果（情報）を職員間で共有し、業務改善に取り組み、長岡市の事業としてどう反映させるか検討していく必要がある。

○地域図書館

県立図書館主催の外部研修には今後も継続して参加していきたい。勤務人数の都合上、全館平等に参加することが難しいが、各館でもオンライン研修に参加しやすい環境を整え、希望する研修が受講できる回数を増やしていきたい。

② 職場内研修

<目的・概要>

- ・係研修を行ったり、外部研修に派遣された職員が講師となり研修報告会を行うことで、職員の資質や専門性向上・情報共有を図る。
- ・各種研修に当館職員を講師として派遣する。
- ・地域図書館ではスタッフの能力育成のため、図書館員としての知識やスキルを向上させる地域館合同研修を行っている。

<研修内容>

○中央図書館

- ①新潟県立図書館訪問研修（レファレンス初級）7月31日（9人参加）
- ②職員提案型研修 危機管理 8月28日 講師：千 錫烈氏（中央館35人、地域館6人参加）
- ③歴史文書館視察研修 11月30日（中央館32人参加）
- ④新潟県立図書館訪問研修（郷土に関するレファレンス）1月31日（25人参加）
- ⑤職員研修ワークショップ「仕事のムダ、ムリを見つけて、減らして、心と時間の余裕を作ろう！」
2月29日

○地域図書館

- ①長岡全体研修① 5月31日 36人参加
普通救命講習会Ⅰ（講師：与板消防署・中之島出張所救急隊員）
- ②長岡全体研修② 10月31日 35人参加
障害を知ろう（講師：長岡市福祉課障害活動係職員）
新たなSNS 開始について
- ③接遇研修（参加2名） 6月29日
- ④TRCレベルアップ研修（6人参加） 11月24日
- ⑤TRCステップアップA研修（1人参加） 12月12日
- ⑥TRCステップアップB研修（1人参加） 1月10日
- ⑦個人情報保護研修
 - <中央図書館での研修への参加>
 - 新潟県立図書館訪問研修（レファレンス研修初級編） 7月31日 10人参加
 - 中央館職員研修（図書館の危機管理について） 8月28日 4人参加

<実績>

- | | | |
|---------|------------|------------|
| （今年度実績） | 中央図書館：4回実施 | 地域図書館：7回実施 |
| （昨年度実績） | 中央図書館：5回実施 | 地域図書館：6回実施 |
- ・中央図書館では、係研修を行うほか、国立国会図書館に依頼して研修を行った。職員提案型研修により選書・資料管理に関する研修を行った。
 - ・地域図書館では、今後取り組むSNSに関する研修や今後の障害者雇用に向けての研修をスタッフ全員が共通認識を持てるよう研修を行った。

<課題・今後の方針>

- 中央図書館では、図書館事業をより充実させるため、サービス向上につながる研修を継続して行いたい。オンライン研修を取り入れ、より多くの職員のスキルアップを図りたい。
- 地域図書館では、研修に参加することでスタッフのスキルアップを図り、サービス向上につながるようにしていきたい。